

高齢者の 生活支援

佐藤幸一 議員

コミュニティバスが通っていない郊外・農村部に住む高齢者の移動手段確保について伺う。

阿部町長

農村部においては、スクールバスの混乗（乗り合わせ）を利用いただけているが、限られた時間帯の運行で、1日1往復であることから、一部の方の利用にとどまっている。定期バスを運行した場合、路線周辺に住んでいる方は利用しやすいが、路線から離れている方は停留所までの移動が容易ではない。乗車後の移動時間が必然的に長くなるため利用が思うように進まず、空車を巡回する場面が多くなると考えられるので、管内の自治体でも一部取り組みが始まっている「予約乗合型」の

公共交通を軸に、具体的な運行方法、料金設定などを検討していきたい。

自主防災組織づくりに向けた地域担当制度の導入



原 紀夫議員

大災害を受け、防災担当参事を新たに配置し、町民を含めた訓練を検討するなどの積極的な計画は評価しているが、町民のボランティアを含めた助け合い行動には希薄さを感じている。

以前から主張している「町職員を町内会に配置すべき」との考えについて、特に近年の採用により40歳未満の職員は60名を超え、そのほとんどは町外出身者であり、本町の状況を知る上からもベケレバツ川洪水浸水想定区域内の町内会に若手職員も含めて担当職員を配

置すべきであると考えられるかがか。

阿部町長

町内会連絡協議会等との協議により自主防災組織の在り方について議論した上で、モデル的にいくつかの町内会に地域担当職員を配置し、防災の具体的な活動を盛り込んだ組織の立ち上げを働きかけていきたい。さらに、新年度においては町内会長会議等で自主防災組織のつくり方や運営方法について一定のひな形を示し、その上で地域担当職員を派遣し、実効性のある地域づくりについてお願いしていきたい。

敬老事業の見直し

原 紀夫 議員

敬老祝金条例が廃止されてから13年目になる。敬老会は催し物を若干変化させながら開催して

いるが出席者は年々減少している。記念品の紅白まんじゅうが敬老会の中心と捉えられているように感じている町民が多い中、この事業の開催には職員や関係団体の目に見えない努力も欠かせないものと考ええる。

今後の開催に向けて、高齢者が年に一度の敬老会を心待ちにし、会場が満席となるよう努力すべきと考えられるかがか。

また、敬老祝金の復活は考えていないのか伺う。

阿部町長

敬老会は、高齢者の皆さまに感謝の意を伝える場でもあるので、今後はより多くの方に来ていただけるよう、プログラムなどにより一層の工夫を凝らして取り組みたい。敬老祝金の復活は考えていない。高齢者が本町で安心して元気に暮らせるような体制づくりを更に進めていきたいので、その部分に予算を使っていきたい。



本年度の敬老会では、保育所児童の遊戯や各老人クラブ会員の舞踏などが披露された

「新学習指導要領」の実施にあたって



木村好孝議員

①子どもにどのような資質・能力を形成するかを定め、その育成目標を示し、学びに向かう人間性まで求めていることについて考えを伺う。

②目標達成のため「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善」まで規定し、各学校の教育課程編成・実施・改善の点検を行うことについて、各学校への指導・助言の在

り方を伺う。

伊藤教育長

①子どもたちの生きる力を具体化するために規定したものと考えており、学習の質の向上と授業改善に向けた取り組みがより一層活性化していくことを期待している。

②各学校においては地域などの実態に基づいた学校教育目標を設定し、それを達成基準として教育課程を編成するものと理解している。今後も教育指導幹が定期的に学校を訪問し、指導・助言を行い、教育活動を支援していく。

③小学校5年生からの英語教科については、学習がより良いものになるよう指導体制の充実や実施方法について、各学校と協議しながら決定していきたい。

自主防災の活動支援と組織づくり



北村光明議員

教科道徳の評価については、自らの成長を実感し、意欲の向上につながるきっかけになることが重要と考えている。銃剣道については、地域や学校の実態に応じて履修させることができるかと規定されているが、本町で行う考えはない。

民生・児童委員制度の理解と協力体制

北村光明 議員

他の民間団体においても自主的防災組織が結成され、自立した活動が行われることが理想的であるので、必要に応じた支援をしていきたい。

連合会等と連携し、組織的な防災活動体制を具体的に整えられるよう支援していきたい。

他 議員

少子高齢社会を迎えて町民福祉に携わる民生委員・児童委員の役割は増大し、その活動は複雑で多岐にわたる。善意に基づくボランティア活動には限界があり、全国的にも抱い手不足が課題となっている。

委員の負担軽減と合わせて待遇改善を行うべきだと考えるかがか。

また、その役割と感謝すべき活動への協力を町民に広く認識してもらえ



民生委員制度創設100周年のシンボルマーク

※広報しづみ10月号に民生・児童委員の活動について特集が掲載されました。

本町の医療政策

北村光明 議員

町民の健康を守るという観点からの議論や「医療計画」が不足していると感じる。地域医療の課題として救急、在宅医療、介護予防の連携を推進するために「地域医療係」等の部局を設置し、職員による専門的な「医療計画」を作成し推進しては

阿部町長

医療計画そのものは都道府県が策定するものであり、町で策定するものではないが、在宅医療と介護予防の連携を推進していかなければならないこともあり、介護保険事業計画の策定においても求められているので、町内の医療機関や介護保険事業所の意見を聞きながら、より一層の連携推進に取り組んでいきたい。

旧しづみ温泉フロイデの施設現状

北村光明 議員

長期休業中となっている旧しづみ温泉フロイデが廃虚のようになっており、国道274号線にある広告表示も無用なものとなっている。本町が建設した「遺産」とも言える温泉施設をそのまま放置するのではなく、何らかの対応が必要だと考えるが見解を伺う。

阿部町長

温泉施設は平成20年4月に民間企業へ売買契約



道のりを示す看板（上）と休業中の温泉施設（下）

により譲渡し、同年6月から営業を再開したが、平成22年10月から休業している。休業が続いている中で町に対し、再開時期の問い合わせや看板に関する苦情などが多数寄せられたことから、過去に対応について弁護士に相談したところ、「本体施設及び看板などは相手方の所有物のため、同意が得られないと手をつけることができない」との判断であった。現在まで相手方の明確な意思表示はなく、確認ができた時点で対応策を検討したい。